

# 我が国における「高等研究所」等の名称を付す

## 研究組織の現状と課題

### —新しい学問を創造するための組織整備と大学戦略を考える—

太田和良幸（文部科学省）

#### はじめに

Institute for Advanced Study のことを日本では高等研究所という。それもアメリカのプリンストンにあることからプリンストン高等研究所と言われている。同機関の正式名称は、単に「Institute for Advanced Study」（以下、「IAS」と略す。）である。この機関が注目されているのは、多くの人との触発の中で自由な研究に専念できるその研究環境にある。また、実際に、ここで多くの優れた研究者が集まり、独創的・先駆的研究が行われ、ノーベル賞受賞者も多いからである。日本では、真に独創的な基礎研究を成果あるものとするためには、優れた研究者がゆったりと自由に議論できる環境が必要とされ、この IAS がそのモデルとされてきた。

近年研究投資の効率が重視され、短期間で成果が出やすい研究に資金が集中し、研究が矮小化する傾向がある。本稿ではブレークスルーを生み出すような独創的研究を進めるための研究交流の仕組みについて改めて考えてみたい。このため、本稿では、大学の発展のための国際戦略として近年整備が進む各所の「高等研究所」等の名称を付した研究組織（以下、「IAS 的組織」という。）についてその実情を調査分析した。原則として、日本語の「高等研究」と英語の「Advanced Study (Research)」という名称に着目し、大学に附置される研究組織を対象とした。研究科等に附置される小規模な組織、専任のスタッフを持たないバーチャルな組織、英文名にのみ「Advanced Study」等を使う組織<sup>1)</sup>、事務組織などは取り上げていない。

#### 1 プリンストン高等研究所及び(財)国際高等研究所

##### 1.1 プリンストン高等研究所

最初に、プリンストン高等研究所（IAS）とはどのような研究所なのか確認してみたい。IAS は、我が国はもとより世界中の学術研究組織のお手本として、注目されてきた組織である。1930 年に篤志家の Bamberger 兄弟が資金を用意し、研究所の理念は初代所長の Abraham Flexner のビジョンによって設立された。アメリカ合衆国ニュージャージー州プリンストン市にある私立の独立した学術研究所であるが、世界でも有数の理論研究と知的探求の先進的センターとなっている。自然豊かな 200 万平米超の敷地を持つ真の学者村である。

IAS は、最高レベルの学者を呼び集めるとともに、何物にも拘束されない学問の自由とこれといった目的を持たない研究の重要性を世界に広める模範となっている。Flexner は、好奇心の涵養が重要であり、直接的な有用性を求めなければ予想外の成果を導き出すことができると信じていた (Flexner 1939)。この無用の用の学問を尊ぶ自由な学術研究所は、実学中心だった当時のアメリカの学界に新風を吹き込んだと言われている。第二次大戦前にドイツからアメリカに亡命してきた物理学者のアインシュタインをはじめ、多くのノーベル賞級の著名な学者がこの研究所で研究生生活を送っている。戦後の一時期、湯川秀樹博士も招かれて客員教授として滞在したことがあった。

現在の IAS は、歴史研究、数学、自然科学、社会科学の 4 つの部門に分かれ、28 人を超えない著名な専任教授陣を擁している。また、これらの専任教授陣がスーパーバイザーの役割を果たし、毎年世界中から 200 人ほどの優れた客員メンバーを招聘するとともに、フェローシップを提供し、自由な研究を展開している。

## 2. 財団法人<sup>2)</sup>国際高等研究所

1984 年に創設された財団法人国際高等研究所 The International Institute for Advanced Studies (IIAS) は、IAS をモデルとして作られた研究所である。関西学研都市の京都府木津川市に創設<sup>3)</sup>された同研究所は、「産・学・官の協力のもとに、先進的な研究分野・課題に関して研究を行うとともに、国際的な研究交流を推進し、併せて研究萌芽の創出、新領域の開拓を行い、もって学術の発展に寄与することを目的」(国際高等研究所寄付行為第 3 条)としており、4 万平米の敷地の中に研究棟、ホール、宿泊施設等を整備した充実した環境を持っている。

法人の事業としては、①先進的な研究分野・課題に関する研究、②国内外の研究者による学術の国際交流の実施・援助、③学術に関する講演会及びシンポジウム等の開催・援助、④図書・雑誌等の刊行などがある。ホームページに掲載されている研究事業方針によれば、同研究所は、「従来の学問分野を超えて、異分野の研究者たちの相互理解と緊密な接触を図る場を提供することを最大の特徴」としており、「この特徴を背景に、知の対話型蓄積により、次世代の『学術の芽』を発掘し、さらにその『学術の芽』を育てることを、研究事業の主たる目的」としているとのことである。

具体的研究事業は、国際高等研究所内に設置された研究企画会議、研究推進会議を経て、事業計画が決定され、リサーチフェロー<sup>4)</sup>が招聘されるとともに、研究プロジェクトや高等研カンファレンス、高等研レクチャー等が実行されている。これまで、国内外から多数の著名な研究者が招聘されている。近年、専任研究スタッフが財政上の制約により集められないなど、研究者招聘制度が十分機能しているとは言えないが、京都大学等と連携を図りつつ実績も多い。

## II 日本の大学における IAS 的組織の実態

### 1. 1990 年代から整備された私学の IAS 的組織

(財)国際高等研究所の設立後、1990 年代から 2000 年前後までに我が国で設立された IAS 的組織は、①中部大学 (1996 年)、②創価大学 (1997 年) 及び③国際基督教大学 (2001 年) の組織であ

り、いずれも私学が設置したものである。

### ① 中部大学中部高等学術研究所

中部大学は、1996年に、中部高等学術研究所 Chubu Institute for Advanced Studies を設置した。この研究所は、「国内外の研究者及び研究機関の有機的な連携のもとに、国際的、学術的な共同研究を行い、大学における学術研究及び高等教育の深化、発展に資するとともに、優秀な若手研究者を育成することを目的」（中部高等学術研究所規程第2条）としている。このように、同研究所は、私立大学で我が国初の共同利用研究所として設立され、「学問の再構築」を目的とした文系、理系にとられない共同研究拠点として活動している。私立の大学で当該大学外の研究者との共同研究を積極的に進めている大学は珍しい。

研究所内には、共同研究班という組織が置かれ、年度ごとにテーマが定められて運営されている。この共同研究班は、学内外の多くの研究者等を招聘し、定期的に研究会等を開催している。これまでのテーマは、①アジアにおける伝統文化、②人間安全保障、③はかる、④高等教育を考えるーアウトカムズを中心に、⑤科学と私、⑥持続可能な発展のための教育（ESD）などである。また、研究所には、専任の教授、準教授及び事務職員が置かれているほか、兼任の教授、準教授等、客員教授、客員準教授、研究員等が置かれている。

2012-2016年度には、前年に設立した「国際GIS（地理情報システム）センター」を中核にして、文部科学省の「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」に採択された。研究プロジェクト名は「デジタルアース（俯瞰型情報基盤）による『知の統合』の研究拠点の形成」である。

### ② 創価大学国際仏教学高等研究所

創価大学は、1997年に国際仏教学高等研究所 International Research Institute for Advanced Buddhology (IRIAB) を開設した。大学のホームページによると、同研究所は、「人類共通の文化遺産としての仏教に対して、堅固な文献学的研究を基盤に、原典の批判的研究と思想史的研究を推進し、その研究成果をもって、人類の平和と繁栄に寄与することを目的」としている。

同研究所は、積極的に内外の研究者、研究機関との交流を進めている。実質的な学問的交流の場として、「仏教学懇話会」という創価大学内外の研究者を集めた研究会を毎年数回開催している。講師の殆どは来日中の著名な外国人学者で、参加者の半数以上が学外の研究者とのことである。また、優れた外国人学者を研究所に招聘し、あるいは若手研究者に研究機会を与えるため、外国籍の仏教学の教育研究者に学術奨励金を支給し、期間を限って研究所において研究等に従事させ、情報交換を通じ相互理解を深めているとのことである。なお、研究所は、開設当初において専任の研究員3名、学内の兼任研究員2名でスタートしている。

2004-2008年度には、文部科学省「私立大学学術研究高度化推進事業」中の「オープン・リサーチ・センター整備事業」の研究拠点として選定された。研究プロジェクト名は「仏教文献学研究センター」である。

### ③ 国際基督教大学高等臨床心理学研究所

国際基督教大学は、2001年に高等臨床心理学研究所 The Institute for Advanced Studies of Clinical Psychology (IASCP)を開設した。大学のホームページによると、同研究所は、「人間の心の成長を促進する心理療法を中心とした高次の臨床心理学的研究を行うことを目的」としている。また、同研究所では、「研究・調査活動のほか、心理相談活動、心理臨床家としての訓練、現任者研修、訓練・教育プログラム開発、地域の方々のための心理教育ワークショップ」を行っていると説明されている。

同研究所は、専任教員、兼任教員、非常勤助手それぞれ数名で構成されている。また、「専門家の研修の場」として位置づけられ、「特定の研究テーマを持って臨床活動に取り組む研究員制度」があり、数名の研究員、準研究員が学外から招聘され、無給で在籍している。

## 2. 早稲田大学高等研究所

早稲田大学は、2007年に創立125周年を迎え、その後10年以内に、グローバルユニバーシティとしての「WASEDA」を構築すると宣言し、グローバル化推進にかかる事業を最優先と位置付け、取り組んでいる。世界の「WASEDA」に相応しい卓越した国際的な研究大学へと飛躍する一環として、2006年9月に高等研究所 Waseda Institute for Advanced Study (WIAS) が設立された。

この研究所は、ウェブサイトの研究所概要によると、「次世代を担う若手研究者の育成と学内の研究教育活動の活性化を目的に、若手研究者が任期付き教員（原則3年間）の資格で、自立した研究環境において研究活動に専念できる機関」として位置付けられている。また、同研究所では、「人文科学、社会科学、自然科学と分野を限定せず国際公募により広く世界から人材を募集し、若手研究者が分野を超えた切磋琢磨や学内教員との協働を通じて、柔軟な発想や能力・資質を十分に発揮した研究活動を展開」していて、「若手研究者は、異分野の研究者との交流等により豊かな創造性を育み、将来的課題を掘り起こし新たな領域を切り開くような研究者として、第一線で活躍することが期待されて」いると説明されている。さらに、同研究所では、「国際的な研究業績を有する海外の研究者を訪問研究者<sup>5)</sup>として受け入れ、学内研究者との交流等を通じて早稲田大学の研究活動の活性化を図って」いる。また、「兼任研究員（学内の専任教員等）を中心とした研究プロジェクトを推進し、多様な研究者の連携・協働による学際的で箇所横断的な研究の場を高等研究所に構築することで、早稲田大学全体の研究水準の向上を目指して」いるとのことである。

高等研究所の研究プロジェクトの実施に当たっては、「若手研究者の育成と異分野の融合」という研究所の理念に基づき、人文・社会科学、自然科学という枠を超えた学際的な『研究エリア』を設定し、早稲田大学の専任教員がリーダーとなって、研究交流や共同研究等が進められている。『研究エリア』では、研究所の若手研究員のほか、多様な分野の教員・研究者が参加して異分野間の交流が進められている。2012年度<sup>6)</sup>は「比較文明史」と「政治・経済・法の計量分析」の2研究エリアが試行され、2013年度から本格的にプロジェクトが開始される予定とのことである。

### 3. 国立大学法人の設立した IAS 的組織

国立大学が法人化される前には、国立大学の附置研究所等は政・省令<sup>7)</sup>で定められていたので、基本的には大学独自で簡単に学内に新たな組織を作ることはできなかった。2004年に国立大学が法人化されて以降は、大学の意思で組織の改編もできるようになり、大学の将来へ向けての戦略の中で、高等研究所のような新たな独自の組織も整備できるようになった。このため、近年いくつかの国立大学法人で、IASに類似した組織が整備されている。以下、設置順に、名古屋大学、東北大学、九州大学、東京大学の例を紹介する。

なお、国立大学の法人化前には、基礎研究を実施する研究所の多くは研究領域を明確化しつつ大学附置研究所、大学共同利用機関（研究所）等として整備されていた。その中で、東京大学先端科学技術研究センターのように、学際性、流動性、国際性、公開性をモットーに、先端科学技術の新領域を開拓することを目的とするユニークな研究所もあった。ただ、公費を投入する以上、有用性などの何らかの存在理由が問われたため、無用の用とも言える研究を実施するIASモデルの研究所を国立で設立することは難しかった。

#### ① 名古屋大学高等研究院

高等研究院 Institute for Advanced Research (IAR) は、名古屋大学が同大学学術憲章に基づき、世界最高水準の研究活動を推進し、卓越した研究成果をあげ、さらにそれを社会に還元するため2002年に学内措置<sup>8)</sup>で創設したものであり、部局を超えての研究専念組織である。法人化前の自主組織として特異な存在であり、国立大学の中ではIAS的組織のさきがけの取組である。

同院は、「名古屋大学が自らの意志で将来の知的資産としての価値及び更なる展開が期待できると判断した極めて独創性の高い学術研究を集中的に推進し、画期的な成果を上げることにより全学的な研究活動の活性化に寄与すること、及び名古屋大学における学術研究の先導的な拠点としての活動を通じて当該成果を広く社会に還元することを目的」（高等研究院規程第2条）としている。

同院には高等研究院アカデミーが置かれている。アカデミーは、同院の目的達成のため総長又は院長に助言及び提言を行う組織である。また、基幹教員として、院長、副院長（3人）、及び専任教員（2人）が置かれ、同院の運営に当たっている。さらに、同院には、プロジェクトの遂行に専念する高等研究院教員、特任教員、活動支援のための院友等を置いている。

#### ② 東北大学国際高等研究教育機構

東北大学では2007年に国際高等研究教育機構 International Advanced Research and Education Organization (IAREO) を設置した。この機構は、「東北大学の学内共同教育研究施設等として、先端融合領域における新機軸研究の創出並びにその学理及び応用の研究並びに国際的に通用する若手研究者の養成の推進を図り、もって東北大学の研究教育の高度化に資することを目的」（国際高等研究教育機構規程第2条）としている。同機構には、「各研究科等との連携を通じて、異分野の融合領域における新たな研究分野の研究成果を基盤とした教育に関する研究開発、企画及び支援を行うことにより、新たな総合的知を創造し、かつ、国際的に通用する若手研究者の養成を推進することを目的」（同規程第5条）とする国際高等研究教育院 Institute for International Advanced Research and

Education が置かれている。また、同機構には、「先端融合領域に関する学理及び応用の研究を行うとともに、先端融合領域における若手研究者を養成することを目的」（同規程第 11 条）とする先端融合シナジー研究所<sup>9)</sup>Institute for Synergistic Interdisciplinary Research が置かれている。

このように、東北大学では教育と研究を総合的に推進する学内共同教育研究機構として、国際高等研究教育機構を設置しており、同機構の傘下に教育機構として国際高等研究教育院を、研究機構として先端融合シナジー研究所を置く構成になっている。この両組織は、表裏一体の関係で運営されている。

国際高等研究教育院には、①生体・エネルギー・物質材料領域基盤、②ライフ・バイオ・メディカル領域基盤、③情報工学・社会領域基盤、④言語・人間・社会システム領域基盤、⑤先端基礎科学領域基盤の 5 つの領域基盤（教育分野）が置かれている。同院では、融合領域の新分野で学習・研究活動を希望する大学院生等の中から優れた学生を選抜して、各種の支援を行っている。募集定員は修士課程、博士課程ともに 30 人となっている。

先端融合シナジー研究所には、国際高等研究教育院と同じ 5 つの領域基盤（研究分野）が置かれている。なお、この領域基盤は、同研究所の目的を達成するため、別に定める学内の研究センターと連携して研究及び若手研究者の養成を行うものとされている。

#### （東北大学原子分子材料科学高等研究機構）

東北大学では上記国際高等研究教育機構の他に、文部科学省が進める「世界トップレベル研究拠点プログラム（WPI）」事業の一つの拠点として、2007 年に材料科学の分野の研究拠点を原子分子材料科学高等研究機構 Advanced Institute for Materials Research（AIMR）として設置している。WPI 研究拠点には、「世界最高レベルの研究水準」、「融合領域の創出」、「国際的な研究環境の実現」、「研究組織の改革」などの要件が求められており、AIMR は、当然これらの要件をクリアした研究機構となっている。従って、設立した時から、世界最高レベルの研究水準の研究者が集まる国際的な研究環境を誇る研究所である。研究者は国内外から招聘されている。

### ③ 九州大学高等研究院

九州大学は、高度な研究活動を推進するための部局を超えた全学的組織として、2009 年に高等研究院 Institute for Advanced Study（IAS）を設置した。同院は、「九州大学が世界的研究教育拠点として、学界をリードする卓越した研究成果を上げるために、分野を問わず、九州大学の誇る優れた研究者のうち、その専門分野において極めて高い研究業績を有する者、ポスト・プロフェッサー及び九州大学の次世代を担う若手研究者が実質的かつ高度な研究活動を展開する場として、全学的な協力体制のもとに設置するとともに、これらの活動を通じて人材を育成し、その研究成果を広く社会に還元することを目的」（学則第 7 条の 3）としている。同院は、上記目的を達成するため、①高度な研究活動を展開するとともに、②次世代を担う若手研究者を育成し、③卓越した研究成果を学内外へ発信している。

同院には、院長、副院長のほか、荣誉教授及び特別主幹教授<sup>10)</sup>が置かれている。この荣誉教授等は、①研究推進のために高等研究院が行う活動に関する事項、②若手研究者及び大学院生の育成に関する事項、③その他九州大学におけるアカデミアの構築に関し必要な事項について総長又は院長

に助言及び提言を行うとされている（高等研究院規則第5条）。

また、同院には、テニュア・トラック制教員を置くとされている（同規則第7条）。九州大学では大学独自に、「次世代研究スーパースター養成プログラム」というテニュア・トラック制に基づいた意欲的な取組が実施されており、このプログラムに参加する若手研究者が「特別准教授」として同院に所属する仕組みになっている。同院の構成は、名大高等研究院の構成に類似しているが、名大の院友に相当する制度がないなど規模が小さい。

#### ④ 東京大学国際高等研究所

東京大学では、「学術の多様性の確保と卓越性の追求」というテーマに重点的に取り組むべきとし、「世界最高水準の卓越した研究を遂行する」、「国際発信力を強化し、総合研究大学としての国際的プレゼンスを高め、大学間連携や学術を先導する」ことなどを達成目標として設定し、これらの目標を達成するための具体的取組の一つとして、2011年に国際高等研究所 Todai Institutes for Advanced Study (TODIAS)を新たな全学組織として設置した。同研究所には「別に規則で定めるところにより、研究機構を置く」（基本組織規則第21条の2）とされているが、その研究機構は、「次の各号に掲げる要件をすべて満たすと認められる研究組織」（国際高等研究所規則第4条）とされており、同研究所は卓越した研究を推進する組織として位置付けられている。研究環境の国際化が必要とされているが、その運営手法については、特段の明示はない。

①世界トップレベルの研究拠点として公的機関等から選定又は評価を受けていること。

②十分な外部資金を獲得し、専ら当該資金を財源として運営がなされていること。

③所属する研究者に占める外国人の割合が一定以上に達するとともに、内部の公用語を英語とするなど、研究環境の国際化が図られていること。

なお、同研究所に置く研究機構は、2011年に数物連携宇宙研究機構(IPMU)と決定されている。同機構は、文部科学省のWPI研究拠点に採択され、2007年に発足したものである。また、2013年からはサステナビリティ学連携研究機構(IR3S)も置かれることになった。

### III 考察

我が国には、多くの優れた研究者を海外から招聘して研究に専念してもらうようなプリンストン高等研究所(IAS)と同じ運営方法をもつ研究組織はないが、大学内の教員等に研究に専念できる自由な研究環境を用意している類似組織(IAS的組織)がある。これらのIAS的組織は、(財)国際高等研究所のようにIASを直接に手本としているものはないが、模して作られていると思われる。いずれも、研究者の交流を図り、自由な研究環境で研究を進めることを目指しているという点に共通点が見られる。

2000年前後に創設された中部大学、創価大学、国際基督教大学のIAS的組織は、小規模ながら専任の研究所員に加えて学外からの研究者を招聘する制度も持ち、共同研究、研究交流を推進し、実績を上げている点が評価される。

早稲田大学の高等研究所は、グローバル化推進の一環で、国際的研究大学の仲間入りを目指して戦略的に設置されたものである。若手研究者の養成に力を入れ、国内外の研究者を受け入れ研究交流を促進することとしており、これからの成果が期待される。

国立大学法人のIAS 的組織は、皆世界最高水準の研究推進を標榜している。名古屋大学、九州大学、東京大学のそれは研究推進の組織である。東北大学の国際高等研究教育機構は、研究組織と教育組織の表裏一体の構造となっており、優秀な大学院生を選抜し世界レベルの研究者として育てるための受け皿（大学院）として機能している。名古屋大学と九州大学の高等研究院及び東京大学国際高等研究所は、学内の研究プロジェクトの受け皿としての位置付けが強い。東京大学国際高等研究所は、既に世界トップレベルの研究拠点として認知された研究拠点 IPMU 等を受け入れる組織として機能している。また、東北大学の原子分子材料科学高等研究機構は WPI 拠点として設置されたもので、最初から東大の IPMU と同じく、世界トップレベルの研究拠点である。

これらの国立大学法人のIAS 的組織は、ノーベル賞受賞者及びノーベル賞候補をはじめとする大学の国際的レベルの研究をアピールし、大学のプレゼンスを内外に高めるのには好都合であり、大学の将来戦略として評価できる。但し、既にトップレベルの研究実績を上げている組織であり、これから有意な研究を育てるという運営手法、研究環境を前面に打ち出した組織ではないように思われる。また、これらのIAS 的組織では、研究交流の予算は、研究プロジェクトや学内のその他の予算からも賄えるからであろうか、IAS のように外部から多くの研究者を招聘して研究スタッフが入れ替わるという仕組みが総じて弱いように見受けられる。

なお、これらのIAS 的組織が実際に活動しているかを確認するため、国立情報学研究所で提供している CiNii (NII 論文情報ナビゲータ)<sup>1)</sup> のデータベースに収録されている論文で、該当機関に所属する研究者の論文数を数えたところ、結果は表1の通りとなった。この CiNii 収録論文は、自然科学の分野を中心としており、人文・社会科学系の多くや大学の紀要などで電子化されていないものは収録されていないので、このデータベースで正確に成果を比較することはできないが、少なくとも論文の生産が確認できる場合は、研究活動も確認できると考えられる。なお、海外に発表された論文は収録されていないので、一部のトップレベルの論文はこのデータベースでは検索できない。こうしたことを前提に考えると、東北大学の原子分子材料科学高等研究機構は当然のこととしても、その他の大学のIAS 的組織では、兼務教員数が多く規模が比較的大きい早稲田大学高等研究所及び名古屋大学高等

表1 所属研究者の国内発表論文数

所属機関名	和文	英文
	論文数	論文数
中部大学中部高等学術研究所	18	2
創価大学国際仏教学高等研究所	3	0
国際基督教大学高等臨床心理学研究所	2	0
早稲田大学高等研究所	178	41
名古屋大学高等研究院	105	42
東北大学国際高等研究教育機構	26	14
東北大学原子分子材料科学高等研究機構	144	114
九州大学高等研究院	13	5
東京大学国際高等研究所	2	1

(注) 1. CiNii 収録論文を 2013 年 9 月 25 日時点で検索した結果である。

2. 英文の論文数は、英語の検索エンジンで検索した結果の中から<in Japanese>と記載されている日本語で書かれているものを除いている。



研究院等で、それなりの成果を上げていることが確認できる。

#### 注

- 1) 例えば、東京大学東洋文化研究所は、英語名を「Institute for Advanced Studies on Asia」としている。
- 2) 2013年4月から公益財団法人として認証を受けている。
- 3) 財団としての認可は1984年だが、木津川市での研究所の開設は1993年10月である。
- 4) リサーチフェローは、無給だが研究費が支給される。
- 5) 毎年10名程度を招聘期間1か月間程度で受け入れているとのことである。
- 6) 2011年度までは研究所全体での研究テーマ設定は行われていなかったとのことである。
- 7) 国立学校設置法施行令又は同法施行規則に規定されていた。
- 8) 高等研究院は、法人化後、学内規則により正式な組織として位置付けられている。
- 9) 2007年に、異分野の学術領域の融合により形成された新融合領域における世界的なトップランナーとしての若手研究者を養成するため、「国際高等融合領域研究所」が設置されたが、その後終了予定のグローバル COE プログラムの受け皿を用意するため、「先端融合シナジー研究所」に改組された。
- 10) 世界をリードする研究業績をあげ、国際的に活躍する研究者を特別主幹教授として招聘している。
- 11) CiNii は、日本の学協会誌及び研究紀要等の学術雑誌に掲載された論文に関する情報の検索及び閲覧のサービスを提供するものである。日本で生産される論文を探すために作られたデータベースであり、約 1,500 万の学術論文情報が収録されている。成果指標としてよく使われる Web of Science などの外国の論文データベースは、一定の著名なジャーナル群の中の英文論文データを集めたものであり、理系の一部の研究成果としては有効な指標であるが、本稿の対象のような全学術分野を通して見る時には必ずしも有効な指標とは言えないと考えられる。

#### 参考文献

- FLEXNER, Abraham, 1939. The Usefulness of Useless Knowledge. *Harper's Magazine*, October. pp.543-552
- 国際高等研究所 (1999) 『国際高等研究所 15 年のあゆみ』
- 金森順次郎 (2004) 「国際高等研究所という試み」『學士會報』No.849 (平成 16 年 11 月) 号、53-58 頁
- 早稲田大学高等研究所 (2013) 『Waseda Institute for Advanced Study』(パンフレット)
- 名古屋大学高等研究院 (2012) 『高等研究院便覧 2011 年度』
- 名古屋大学高等研究院 (2012) 『高等研究院年次報告 2010』
- 東北大学国際高等研究教育機構 (2012) 『東北大学国際高等研究教育機構 2012』(パンフレット)
- 九州大学 (2010) 『高等研究院 Institute for Advanced Study』(リーフレット)

Institute for Advanced Study (Website). <http://www.ias.edu/> (accessed 2013-09-25)

国際高等研究所. <http://www.iias.or.jp/> (参照 2013-09-25)

中部大学中部高等学術研究所ウェブサイト. <http://www.isc.chubu.ac.jp/chukoken/index.html> (参照 2013-09-25)

創価大学国際仏教学高等研究所ウェブサイト. <http://iriab.soka.ac.jp/orc/index.html> (参照 2013-09-25)

国際基督教大学高等臨床心理学研究所ウェブサイト. <http://subsite.icu.ac.jp/iascp/index.html> (参照 2013-09-25)

早稲田大学高等研究所ウェブサイト. <http://www.waseda.jp/wias/> (参照 2013-09-25)

名古屋大学高等研究院ウェブサイト. <http://www.iar.nagoya-u.ac.jp/> (参照 2013-09-25)

東北大学国際高等研究教育機構ウェブサイト. <http://www.iiare.tohoku.ac.jp/> (参照 2013-09-25)

九州大学高等研究院ウェブサイト. <http://ias.kyushu-u.ac.jp/index.php> (参照 2013-09-25)

東京大学国際高等研究所ウェブサイト. [http://www.u-tokyo.ac.jp/fin05/c05\\_j.html](http://www.u-tokyo.ac.jp/fin05/c05_j.html) (参照 2013-09-25)

## **Current Status and Issues of the Research Organizations named after "Institute for Advanced Study" in Japan:**

Yoshiyuki OHTAWA (Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology)

In 1984, as a foundation, The International Institute for Advanced Studies (IIAS) was established, with the support of national and local governments, industries, and the academic community in Japan. It was modeled after the manner of Institute for Advanced Study in Princeton (IAS).

After that, several organizations named after IAS were established in Japanese universities. None of them have the same administration system with IAS, but some of them have unfettered atmosphere for research activity same with ISA, and gets many results from cooperation and interaction among researchers.

University research organizations named after IAS had been established among 1991 and 2001 in the middle class private universities, such as Chubu University, Soka University, and International Christian University, on a small scale and concentrating on a specific research field.

And in the last decade, some of the Japanese large research universities, such as Waseda University, Nagoya University, Tohoku University, Kyushu University and University of Tokyo, established research organizations named after IAS, showing their hi-class research level and boosting their international presence. All are intended to promote the new direction study of the fusion domain of different crossing field, improving their academic status. Some of them are already world-top-class research centers, and they will be the good practice for university future strategy.